

令和4年12月5日

美深町議会議長 南 和 博 様

産業教育常任委員会委員長 岩 崎 泰 好

## 所 管 事 務 調 査 報 告

本委員会は、下記の事項について閉会中に所管事務調査を行ったので、会議規則第77条の規定により報告する。

### 記

調 査 日 令和4年10月12日

調査事項 美深高等学校および美深高等養護学校の教育推進について

調査内容 美深高等学校教育振興協議会および美深高等養護学校協力会に対する支援策の現状と今後のあり方

調査方法 聞き取り

### 【現状と課題】

美深高等学校の入学者数は平成25年度から令和4年度までの10年間において、ほぼ毎年20人以上、最大で29人の生徒数を確保している。

美深高等学校教育振興協議会を通じた町の支援は、通学費助成や下宿費の助成をはじめ、インターネット通信講座の受講費用助成、土曜講習、講習テキスト購入費用助成、資格取得や模擬試験等検定料の助成といった教育強化事業やインターンシップなどのキャリア育成事業、教科書、副教材等購入費用を助成する教育充実事業、部活動充実強化事業、学校案内パンフレットを活用した広報活動など様々な支援を行い、加えて平成28年から実施している返済不要の美深高等学校卒業生奨学金制度も奏功して、近年では大学や専門学校への進学者数が増加している。

また、美深高等養護学校協力会への支援状況は、町内出生者へ生徒が作成した木工製品等を寄贈する地域連携事業をはじめ、映画鑑賞会などの研修会費用助成や学校祭等学校行事経費助成、大会遠征費用等の助成、学習支援費用の助成、広報活動への助成など幅広く支援を行っている。

両校とも学校存続のための生徒確保が課題であり、PR活動を継続して取り組んで行くとともに、道の公立高等学校配置計画や特別支援学校配置計画の動向を注視しながら、魅力ある学校づくりをより一層進めるため地域との連携を深めていかなければならない。

## 【調査のまとめ】

美深高等学校や美深高等養護学校に対する教育振興協議会、学校協力会を通じた町の支援は長きに渡っており、時代の流れに沿った継続した支援が、今日の学校存続に寄与していることは大いに評価するものである。

しかし、近年では著しい人口減少や出生率の低下などにより、町内の子供の数も減少するなか、将来的な学校の維持存続において、生徒の安定確保は喫緊の課題である。

平成28年から開始した美深高校卒業生奨学金は、返済不要の給付型奨学金として道内他の自治体に先駆けて採り入れた制度であり、主に隣接する市町村からの入学者増に繋がっており、令和4年度の入学者22人の内、ほぼ半数以上が町外からとなっている。

また下宿施設においては、6部屋中5部屋が利用されているが、常時満室となるようPR活動に力を入れることを望むものである。

今のところ、道の公立高等学校配置計画の存続の基準は満たしているが、美深中学校生徒数の減少や町外への進学希望者の増加で、学校存続は町外からの生徒獲得に依拠するところが大きい。

美深高等養護学校においても、来年度の特別支援学校配置計画案では、引き続き一間口減の定員40人が示されており、様々な支援と共に学校の特色、魅力創出に地域一丸となって連携協力していかなければならない。

最近では美深高校軽音楽部が、その活動を活発にし、全国大会に出場するなど美深高等学校の新しい魅力となっている。そういった部活動の活発化や高校生の「やりたい」「やってみたい」を実現させる学校づくりに町教育行政と地域が手を差しのべる取り組みを推進することが重要である。